

朝比奈まちづくり構想

令和7年7月



藤枝市
Fujieda City

もくじ

第1章 構想の策定にあたって

1 策定の趣旨	1
2 朝比奈地区の現状と課題	2
(1)人口	2
(2)農林業	2
(3)地域資源	2
3 構想の位置付け	3
4 藤枝版ローカル SDGs の推進	4

第2章 朝比奈まちづくり構想について

1 ビジョン	5
2 基本方針	5
基本方針1 地域力の強化と地域ブランドづくり…	6
基本方針2 多彩な魅力を放つ拠点づくり…	7
基本方針3 朝比奈内外での大きな交流づくり…	8
3 事業の展開	9
朝比奈まちづくり構想 地域資源マップ	10

第1章 構想の策定にあたって

1 策定の趣旨

藤枝市朝比奈地区は、豊かな自然環境と歴史文化に恵まれ、中でも全国的に知られる日本三大玉露のひとつ「朝比奈玉露」や、2年に一度開催される伝統行事である「朝比奈大龍勢」など、地域の誇りとなる魅力的な資源を数多く有しています。これらの地域資源は長年に渡り、地域住民の手で守り育てられてきたものであり、朝比奈地区の個性とアイデンティティを形づくる重要な要素です。

一方、人口減少や少子高齢化といった社会的課題が深刻化しており、朝比奈地区の人口は平成27年から令和6年までの10年間で人口が22.8%（452人）減少し、高齢化率が7.7%増加して43.6%に達する等、地域の持続可能性が大きく揺らぎつつあります。とりわけ、若年層の定住促進や地域コミュニティの維持、地域資源の未来への継承と活用、朝比奈地区の基幹産業である茶業を始めとする農林業の振興等が喫緊の課題となっています。

こうした状況に対し、近年、地域住民による朝比奈地区の更なる活性化に向けた自主的なまちづくり検討会議の開催や民間事業者による新たな地域活性化施設整備の動きも見られる等、朝比奈地区の将来を見据えたまちづくりに向けた動きが活発になってきています。

このように中山間地域の中でも地元の機運の高まりをみせる朝比奈地区だからこそ、今こそ地域の目指すべき姿を明らかにし、この地域から未来に向けた変革の一步を踏み出す必要があります。そこで官民で共有しながら一体となって取り組んでいくために、「朝比奈地区まちづくり構想」を策定します。

本構想では、朝比奈玉露や朝比奈大龍勢をはじめとする、活かしきれていない地域資源の再構築を図り、地域の魅力を高め・発信するとともに、人材の育成や郷土愛の醸成を通じ地域力を高め、地域ブランドを強化することで地域住民がいきいきと暮らし、幸せを実感できるまちの実現を目指していくための取組の方向性を示します。



2 朝比奈地区の現状と課題

(1) 人口

(現状)

- ・人口減少、少子高齢化の急速な進行

※住民基本台帳

	H27	R6	10年での人口増減	人口に占める比率
人 口	1,981 人	1,529 人	-452 人 (-22.8%)	-
年少人口	159 人 (8.0%)	115 人 (7.5%)	-44 人 (-27.7%)	-0.5%
生産年齢人口	1,111 人 (56.1%)	747 人 (48.9%)	-364 人 (-32.8%)	-7.2%
高齢人口	711 人 (35.9%)	667 人 (43.6%)	-44 人 (-6.2%)	+7.7%

(課題)

※市内 2 番目の高齢化率(瀬戸谷 44.5%)

- ・買い物や通院等の生活利便性の向上、地域コミュニティの維持。
- ・若年層が住み続けたい、戻ってきたい、移り住みたいと思う、魅力ある地域づくり。
- ・地域内で生計を立てられる雇用の創出。 ・空き家の利活用と移住定住の促進。

(2) 農林業

(現状)

- ・日本三大玉露の一つである朝比奈玉露。
- ・基幹作物であるお茶の価格低迷と国内市場の縮小。
- ・生産性の低い農地の荒廃農地化や放置竹林の増加。鳥獣被害の深刻化。
- ・後継者不足による農林業従事者の減少と高齢化の進行。

(課題)

- ・玉露の後継者育成支援の強化。
- ・農業の担い手育成、生産体制・新規就農支援体制の強化。
- ・農産物の付加価値の向上（ブランド化、6次産業化など）。
- ・玉露、筍、椎茸等の地域農作物の販売拠点の不足。

(3) 地域資源

(現状)

- ・食、文化・伝統行事、自然、歴史等の多様な地域資源（玉露、筍、椎茸、粽、大龍勢、殿コスモス、俳人・村越化石、朝比奈城址、朝比奈和紙等）。
- ・地域活性化事業を実施している多様な団体。
- ・朝比奈いきいき交流センター、たまゆら等の地域活性化施設。

(課題)

- ・地域資源のブランディング強化。
- ・地域活性化事業を実施している団体（活性化団体）の担い手不足と高齢化への対応。
- ・地域による自主的な事業の実施と、事業を実施するための人材育成。
- ・各活性化団体間の連携、各団体をまとめる組織の強化。
- ・自然、歴史、文化といった地域資源の未来への継承。
- ・低利用な地域活性化施設の活用促進。
- ・魅力あふれる地域資源を繋ぎ、地域に利益が循環する取組の推進。

3 構想の位置付け

本構想における計画期間と KPI を設定するとともに、市全体のまちづくり構想や土地利用構想、中山間地域活性化基本計画等、上位計画や関連計画との整合を図りながら、朝比奈地区のポテンシャルを活かした本構想を別途掲げ示していくものです。

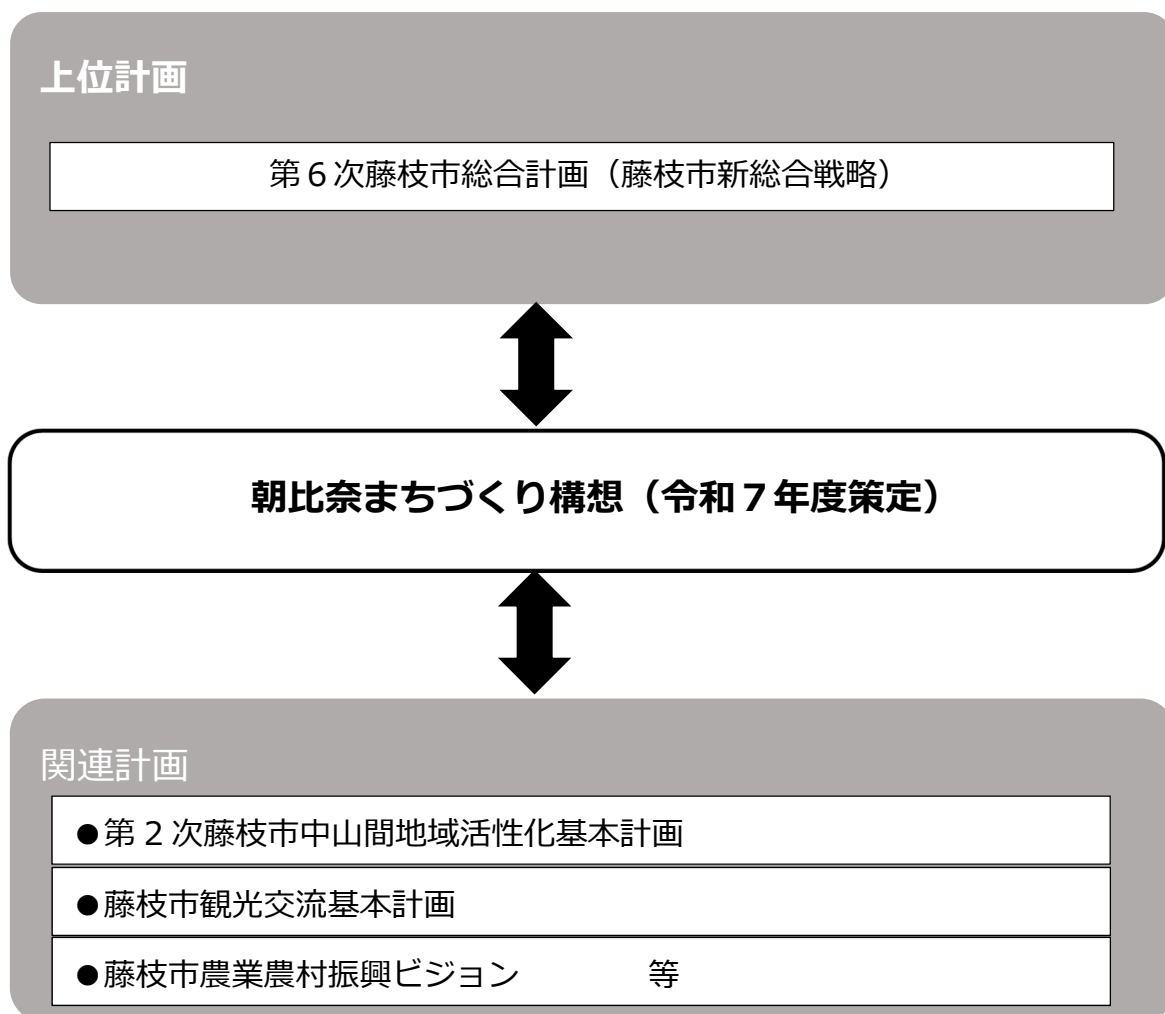
●計画期間

- ・令和 7 年度から 10 年後を目標年次とします。

●KPI

指 標	現状値 (R6 年度)	目標値 (R16 年度)
(1)朝比奈地区における年間 交流人口(玉露の里、朝比奈 龍勢・昆虫館の入館者数)	122,728 人	150,000 人
(2)朝比奈地区における年間 宿泊者数(玉本屋、ファミリ ー民宿朝比奈)	1,736 人	2,000 人

●計画体系と位置付け



4 藤枝版ローカルSDGsの推進

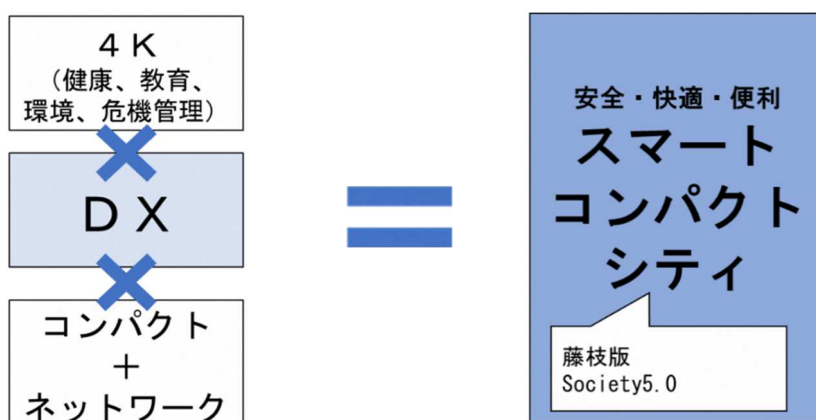
本市では、SDGsへの貢献をより確かなものにするため、市として取り組むべき目標を独自の17の目標による“藤枝版ローカルSDGs”として設定しています。

朝比奈まちづくり構想も、この“藤枝版ローカルSDGs”を踏まえ、策定するものです。

●朝比奈まちづくり構想と関連が深い項目



「藤枝版ローカルSDGs」



出典：藤枝市新総合戦略

第2章 朝比奈まちづくり構想について

1 ビジョン

～地域と文化の力で世界と繋がる～

玉露香るローカル・ビレッジ朝比奈

朝比奈には全国に誇る2つの“誇り”があります。ひとつは「朝比奈玉露」。日本三大玉露と称され、朝比奈独自の地形から沸き立つ霧、匠の技によって育まれる上質なお茶として評価されてきました。もうひとつは「朝比奈大龍勢」。戦国時代に連絡手段として使用されていた狼煙（のろし）が起源といわれており、数百年の伝統を誇る、火薬と手仕事の祭りです。

この二つは、単なる産品や行事ではなく、“地域に住む人の営み”と“自然”、“歴史”が織りなす、地域文化そのものであると言えます。

しかし、人口減少・少子高齢化により、玉露生産者は年々減少し、朝比奈大龍勢の若い担い手が不足するなど課題を抱えています。

そこで、今一度、朝比奈にしかないものを唯一無二の価値として磨き上げることで、地域の誇りを未来へ繋いでいく必要があります。その中心を担うのは日本三大玉露のひとつである「朝比奈玉露」です。朝比奈玉露のリブランディングを通じて地域ブランドを力強く発信し、世界と繋がることで単なる観光による地域振興を図るのではなく、地域に根付く文化や歴史、自然、暮らしそのものが魅力となり価値を持つローカル・ビレッジを目指す必要があります。

玉露を飲んで一息。そのような朝比奈の人にとって“普通の日常”が都市の人にとっての“特別な非日常”となります。地域の誇りや伝統を未来へ繋いでいくため、「～地域と文化の力で世界と繋がる～玉露香るローカル・ビレッジ朝比奈」をビジョンに掲げます。

2 基本方針

まちづくりの基本方針として、3つの基本方針を設定しました。なお、それぞれの基本方針に基づく取組を実施するとともに、横断的な取組を実施することで、ビジョンの実現に向けて戦略的に取り組みます。

基本方針① 地域力の強化と地域ブランドづくり

基本方針② 多彩な魅力を放つ拠点づくり

基本方針③ 朝比奈内外で大きな交流づくり

基本方針① 地域力の強化と地域ブランドづくり

地域の人材育成や地域資源の未来継承等への支援、朝比奈ブランドの強化

地域住民一人ひとりがいきいきと暮らし、郷土への誇りと愛着を育むとともに、地域活性化団体の取組が活発に展開される地域を目指すため、未来に向けた人材育成、地域資源の継承等への支援及び地域ブランドの強化に取り組む必要があります。

《取組の方向性》

- ・ 地域の特長を伸ばし、地域の課題解決に向けた地域による主体的な実践活動を通じて人材育成を図る等、郷土愛を育みます。
- ・ 農林産物の付加価値を高める環境を整えるとともに、中山間地域ならではの稼げる農林業の振興を図ります。また、その取組を通じて、豊かな自然環境を守り育てます。
- ・ 安心して暮らすことのできる生活基盤の整備、多様な地域活動・産業活動による地域コミュニティと地域経済の活性化により定住環境を整えるとともに、空き家の活用や規制緩和等による移住促進を図ることで、バランスの取れた人口構造を目指します。
- ・ 玉露や大龍勢をはじめとする朝比奈地区が誇る食、文化・伝統行事、自然、歴史等の地域資源（以下、朝比奈の宝とします。）の魅力を高めることでブランド力の強化を図り、全国的な認知度の向上を図ります。また、地域資源を未来に継承する活動を官民一体となって進めます。

《事業》（実施主体：藤枝市、地域住民、地域活性化団体、民間企業）

【重点事業】

- ☞ 地域活性化組織「ふるさと朝比奈いきいき連」の体制及び活動の強化に向けた支援
- ☞ 藤枝市農商工・6次産業化ネットワークを活かした農林産物の6次産業化に向けた支援強化

◆ その他の事業

- ・ 活性化団体間の情報共有、連携促進 ・ 既存イベントの拡充、再構築
- ・ 農産物の付加価値を上げるブランド化の取組や地産地消の推進・地域ブランドの発信力強化
- ・ 伝統的な栽培方法により生産される玉露を「朝比奈手摘み本玉露」としてブランド化
- ・ 酒米の生産拡大 ・ 鳥獣被害対策の推進
- ・ 玉露、大龍勢をはじめとする地域の宝を未来に継承する活動
- ・ 産学官民で高齢者に、運動、交流、買い物、食事等をワンストップで届ける、高齢者地域生活総合サポート事業

※地域力とは、地域住民や地域活性化団体等による様々な活動（事業）や人材育成等が自主的に実施出来る状態であることと定義します。

基本方針② 多彩な魅力を放つ拠点づくり

地域資源を活かした拠点の整備や再生、事業の充実

地域資源を活かしたローカルツーリズム体験施設の整備や既存施設の再生に取り組むことで、地域の魅力を対外的に発信するだけでなく、地域資源の活用や価値向上に資する取組を促進し、“朝比奈らしい”魅力を放つ拠点をつくる必要があります。

《取組の方向性》

- ・地域資源を活かしたローカルツーリズム体験施設の整備や朝比奈地区の魅力・価値向上に資する取組を支援します。
- ・玉露、筍、椎茸等、地域の農林産物を販売し、発信する拠点の整備に取り組みます。
- ・朝比奈龍勢・昆虫館、玉露テラス朝比奈など、朝比奈の宝の魅力を体験できる拠点の取組を支援します。
- ・玉露の里と地域の連携を深め、地域の魅力の積極的な発信や地域産品の出品しやすい仕組みの構築などに取り組みます。
- ・朝比奈龍勢・昆虫館と玉露の里の連携を強化し、両施設が連動した取組の実施により、来訪者の増加を目指します。
- ・民間事業者による地域展開を促進するとともに、地域と連携した地産地消の仕組みを構築する等、地域経済の活性化を図ります。
- ・地域活性化施設（たまゆら、いきいき交流センター）の活用促進に取り組みます。

《事業》（実施主体：藤枝市、地域活性化団体、民間企業）

【重点事業】

- ☞ ローカルツーリズム体験施設整備、玉露の里リニューアル
- ☞ 農産物直売施設の整備

◆その他の事業

- ・玉露テラス朝比奈での地域による活性化事業
- ・手揉み実演や、手もみ茶の試飲、体験を実施し、手もみ技術による伝統文化の魅力を市内外の来訪者へ発信
- ・朝比奈龍勢・昆虫館での地域による定期的事業
- ・朝比奈第2保育園跡地の活用
- ・朝比奈第一小の今後の在り方の研究
- ・既存地域活性化施設の活用促進

基本方針③ 朝比奈内外で大きな交流づくり

朝比奈に点在する宝を繋ぎ、周遊・滞在するローカルツーリズムの推進

朝比奈にしかないものを唯一無二の価値として磨き上げ、地域に根付く文化や歴史、自然、暮らしそのものが価値を持つローカル・ビレッジを目指すことで、世界から認識され、繋がる“ローカルツーリズム”を推進する必要があります。

《取組の方向性》

- ・玉露や大龍勢をはじめとする朝比奈の宝に触れることで、地域に根付く文化や歴史、自然、暮らしそのものが魅力となりその価値を認め、周遊・滞在するローカルツーリズムを推進することで地域内消費や雇用の拡大を図ります。
- ・日本遺産の構成文化財を有する岡部宿エリア、陶芸村構想によるアートのまちづくりが進む瀬戸谷エリア、旧東海道藤枝宿を由来とする商店街を含む旧市街地エリア等の市内各地との連携を図ります。
- ・玉露の里への集客を地域内の拠点へ繋ぎ、朝比奈地域内の経済循環が生まれる仕掛けづくりを検討します。
- ・静岡市の中山間地域、オクシズエリアとの連携を図ります。
- ・朝比奈地区内をつなぐ地域の足、移動手段を確保していきます。

《事業》（実施主体：藤枝市、地域住民、地域活性化団体、民間企業）

【重点事業】

☞ ローカルツーリズムの推進

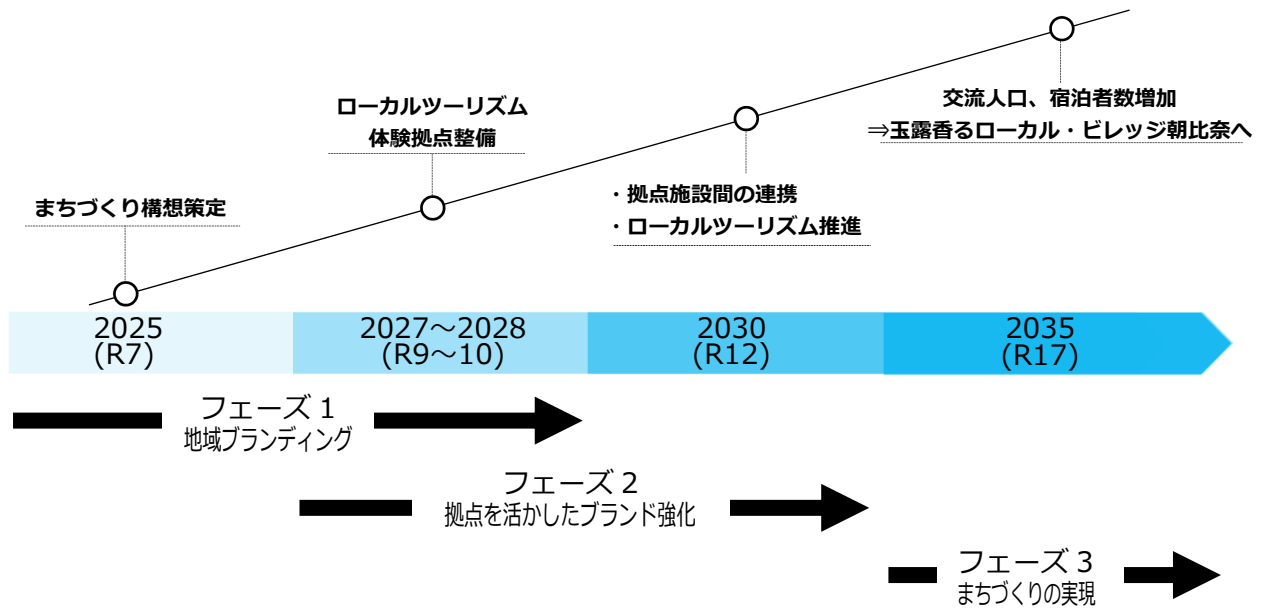
☞ 自主運行バス朝比奈線のより効率的な運行手法の検討

◆ その他の事業

- ・茶文化発信拠点施設（とんがりぼう、玉露の里、市之瀬ティーテラス、玉露テラス朝比奈等）を活用した藤枝茶の魅力の発信および観光ツアーとの連携 ・観光プロモーションの強化
- ・オリエンテーリングの全国大会誘致、コースの情報発信
- ・ハイキング、マラソン、サイクルツーリズムの拠点化
- ・びく石や青羽根パノラマハイキングコース、東海道自然歩道や各種古道を巡るモデルコースづくり
- ・瀬戸谷地区やオクシズエリアと連携したトレイルラン
- ・岡部宿大旅籠柏屋と連携した竹の灯り等、夜間も楽しめるイベント開催
- ・オクシズエリアと連携した、朝比奈和紙の復活に向けた取組
- ・道の駅を活用した北部地域の回遊の仕組みづくり

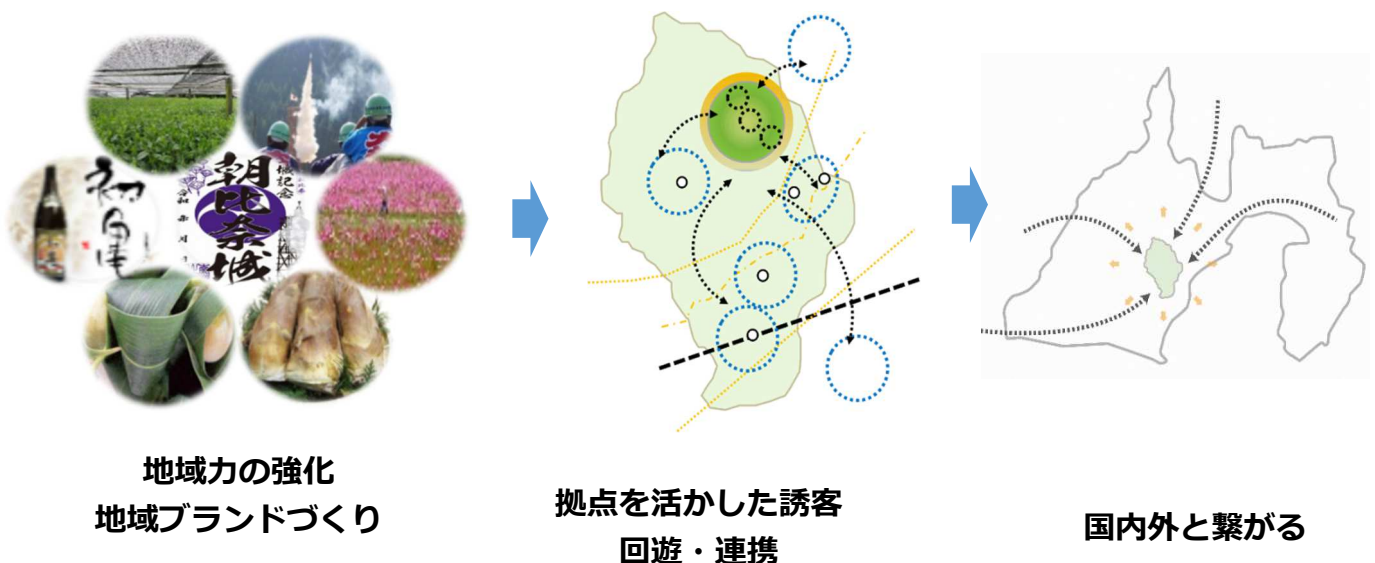
3 事業の展開

● 10年の歩み（目標）



- | | |
|------------------------|--|
| フェーズ1
地域ブランディング | <ul style="list-style-type: none"> ①地域力の強化（自主的事業や人材育成、農林業の振興等） ②未来へ継承する全国に誇る地域資源の磨き上げ ③朝比奈ブランドの強化、国内外への発信、認知度向上 |
| フェーズ2
拠点を活かしたブランド強化 | <ul style="list-style-type: none"> ④地域資源を活かした拠点の整備や再生 ⑤地域資源（人、コト、モノ）を繋ぎ、回遊させ、国内外から誘客 ⑥関係・交流人口の増加による雇用の創出、人材の確保 |
| フェーズ3
まちづくりの実現 | <ul style="list-style-type: none"> ⑦移住・定住の促進による持続可能なまちづくり（地域コミュニティや農業の維持へ） 地域住民のいきいきとした暮らし、幸せを実感できるまちづくり |

● 地域力の強化、地域ブランドづくりから国内外との交流に向けたイメージ



朝比奈まちづくり構想 地域資源マップ

